

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	えぐさ ゆうこ
主な担当科目	ヴォーカル・エクспレッション・メソッドⅠ①,ヴォーカル・エクспレッション・メソッドⅠ②,ヴォーカル・エクспレッション・メソッドⅠ③,ヴォーカル・エクспレッション・メソッドⅠ④,ヴォーカル・エクспレッション・メソッドⅡ①,ヴォーカル・エクспレッション・メソッドⅡ②,クリエイティブ・エクспレッション,ことばと創作,セルフプロデュース&ビジネスⅠ,セルフプロデュース&ビジネスⅠ,セルフプロデュース&ビジネスⅣ,ベーシック・クリエイティブ・エクспレッション,基礎ゼミ,創作表現基礎Ⅲ,日本語の創作と朗読,セルフプロデュース&ビジネスⅡ,セルフプロデュース&ビジネスⅢ
2025年の教育目標・授業に臨む姿勢	声と言葉の基礎を丁寧に磨き、感じたことや考えを自分の言葉で表現できる力を育てることを2025年の教育目標とする。正解を押し付けず、多様な表現を尊重し、安心して挑戦し試行錯誤できる場づくりを大切にする。対話と実践を重ね、一人ひとりの成長に真摯に向き合う姿勢で授業に臨む。
2025年の教育に関する自己評価	2025年は、受講生一人ひとりの表現や変化に丁寧に向き合い、安心して発言・挑戦できる授業環境を維持できたと感じている。声と言葉を実践的に扱う内容は概ね好評で、表現への自信や意識の変化が見られた点は成果である。一方で、個別フォローのさらなる充実は今後の課題として捉えている。
2025年のFD活動に関する自己評価	FD活動には継続的に参加するとともに、FD研修会の運営にも中心的に関わった。FD全体研修会ではプレゼンテーションを担当し、分科会ではファシリテーターとして議論を促進した。これらの経験を通して、教員間の相互理解と実践的な学びの深化に貢献できたと考えている。得られた知見は自身の授業改善にも有効に反映されている。
授業改善のために取り入れた研修内容	学生との面談を実施し、その結果を分析・検証して他の教員に共有している。また、教員間および学生との情報共有を意識的に行い、授業内容や進行方法の改善につなげた。これらの取り組みにより、学習理解と表現意識の向上を図ることができた。

2025 年度(春学期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:3685 教員名:えぐさ ゆうこ

【ことばと創作】

1)アンケート結果に対する所見

本授業は、授業の実施状況、学生の興味・関心、分かりやすさ、総合的満足度において高い評価を得ている。特に、所定の回数・時間どおりに授業が実施されているとの評価は 4.00 点、総合的満足度は 3.83 点であり、いずれも全体平均を上回った。また、授業時間外学修は平均 80 分で、全体平均の 59 分を上回っている。専門技能・知識の向上を実感した学生は 91.7%、自己表現力の向上を実感した学生は 83.3%であり、本科目が掲げる実践的な学びは一定程度達成されていると判断できる。

2)要望への対応・改善方策

教育到達目標を達成できたとの自己評価は 3.33 点であり、全体平均 3.49 点を下回った。シラバスに示した教育到達目標と、各回の活動・課題・評価との関係を、学生がより明確に把握できるようにする必要がある。また、自由記述には、ラジオ進行やフリートークの技法、個別の指摘・助言を有益とする意見がある一方で、グループワークへの苦手意識も示された。

3)今後の課題

次回開講時には、学生が自分の創作・発話・編集の過程を通じて、どの教育到達目標に近づいているかを具体的に説明できる授業を実現する。授業終了時の到達目標達成に関する自己評価(Q8 相当)は、3.50 点以上を目標とする。また、専門技能・知識および自己表現力の向上に関する肯定的評価を維持し、グループ活動に対して心理的な負担を抱える学生も、無理のない方法で学習に参加できる状態を目指す。

以 上

2025 年度(春学期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:3685 教員名:えぐさ ゆうこ

【日本語の創作と朗読】

1)アンケート結果に対する所見

本授業は、学生による授業アンケートにおいて極めて高い評価を得ている。シラバスおよび教育到達目標の理解(Q1)、シラバスに基づく授業運営(Q2)、授業の実施状況(Q3)、授業への興味・関心(Q5)、分かりやすさの工夫(Q6)、総合的満足度(Q10)は、いずれも 4.00 点であり、全体平均を上回った。教育到達目標を達成できたとの自己評価(Q8)も 3.79 点で、全体平均 3.49 点を上回っている。授業時間外学修は平均 81 分であり、全体平均 59 分を上回った。

また、専門技能・知識の向上を実感した学生は 92.9%、自己表現力は 85.7%、実践力は 78.6%、コミュニケーション能力は 71.4%であった。自由記述では、俳句、食レポート、朗読劇、絵本の読み聞かせなどの多様な活動を楽しめたこと、ゆったりとした空間で他者の魅力に触れられたこと、文化としての俳句の奥深さを再認識できたことが評価されている。

2)要望への対応・改善方策

今後は、現在の高い満足度と安心して表現できる学習環境を維持しながら、創作・朗読の過程で得た学びを学生自身が言語化し、他の表現場面へ応用できる力として定着させる。

3)今後の課題

次回開講時には、学生が創作と朗読の活動を通じて、表現の意図、言葉と声の選択、聞き手への配慮、修正の過程を具体的に説明できる状態を目指す。授業の多彩な題材と自由に取り組める雰囲気は継続しつつ、成果物と振り返りを結び付けることで、満足度の高さを確かな学修成果へつなげる。

以 上